

# 分会情報

J R 東海労大阪第一車両所分会  
No.610 2007.11.20  
発行責任者 小林 國博  
編集責任者 教 宣 部

## これが東海ユニオンの真の姿！

私たち大一両分会は分会情報等において、加藤業務部長に対する会社によるデッチ上げ不当懲戒解雇を東海ユニオンが下支えしていると伝えてきたが、どうやら間違いであったようだ！

それは、大一両の東海ユニオンの掲示板に掲示されている分会NEWSの「東海労組合員は、本当にJR東海社員か?」という見出しが如実に語っている。まるで会社の言いたいことそのままではないか、労働組合が会社の代弁をしているというより、会社が組合の衣を着て発言しているとしか思えない!?これが御用組合たる東海ユニオンの真の姿と言えよう。

今、話題の「船場吉兆」「赤福」・・・を始めとした各種偽装問題で、各企業のモラルが問われており、現実には偽装によって倒産した企業もあった。なぜ偽装問題が起こったのかは、企業がもうけしか考えずに企業倫理や社会通念などを全く無視した結果なのと言うまでもない。残念ながら、それを下支えてきたのは会社の言いなりになるしかなかった立場の弱い労働者である。だからこそ弱い立場の労働者が団結するために労働組合があり、労働組合が会社をチェックしていかないといけないのである。

ところが東海ユニオンは会社の言いなりというより、操り人形とでも言うべきではないか!?従って会社を潰すのは東海ユニオンかもしれない!?

東海ユニオン大一両分会は、私たち分会が取り組む三項目について批判しているようだが、この三項目は私たちが特別に今闘争で始めたものではなく、これまでも取り組んできた課題である。なぜ今になって批判するのだろうか？

私たちが何故休日買上や超勤等に協力しないのは、毎月毎月休日買上を勤務発表時から（11月分では検修2科だけでも延べ101人分の休日買上）設定しないとイケない現状があり、誰が考えても要員が足りない現状を問題にしているのである。それを放置してきたのが東海ユニオンなのだ。私たちが決められた休日の特休・公休の120日、そして年休20日を全員が取得できる労働条件を求めるのは労働組合として当然のことである。

これまで、会社は「必要な要員は確保している」と一切取り合わないため、要員確保の手段のひとつとして休日買上非協力を行ってきたのである。しかし、東海ユニオンが要員不足に目をつぶり、盲目的に会社に協力してきた結果、要員不足＝労働強化が当たり前という現状に至っているのである。

私たち労働者個々は、会社からすれば大変弱い立場である。だからこそ労働組合に結集して、よりよい労働条件を勝ち取るために多少の不利益も覚悟の上で仲間と団結して闘っているのである。

東海労大一両分会は、労働組合として当然の闘いを断固推し進めていく。